

クラブ活動

テニス部

顧問 / 森 敬理 江原 良浩 角田 玲於奈
部員数 / 24名

学校創立の翌年に、本校テニス部は活動を始めたと聞いています。当初は状態の悪いクレーコートで、部員がコート内の小石を拾うところから練習が始まったそうです。

私は本校に奉職してテニス部の顧問となり、伊藤修先生と共に顧問を勤め、2022年に伊藤先生が退職されてから後を引き継ぎました。

長い歴史があるテニス部の更なる飛躍を目指し、生徒とともに精進していく所存です。

スポーツは勝敗がはっきりしています。勝つことを目指して努力することが自然でしょう。その努力をすることで各人が成長し、一生の仲間ができていく、そのような場であり続けてほしいと願っています。

(森)



ハンドボール部

顧問 / 安藤 努 米谷 祥平
部員数 / 23名

県ベスト8を目指し、日々練習しています。何事にも挑戦する姿勢をモットーとしており、部活と勉強の両立に、部員各自が様々な工夫を凝らしています。未経験者の集まりなので、万能プレイヤーはなかなか現れませんが、個々人の武器となる技を磨き、欠点を補い合いながら、チームメイト同士の連携を駆使して、チーム一丸となって戦うプレースタイルが特徴です。



硬式野球部

顧問 / 二川 俊哉 中山 大輔 塩澤 力
部員数 / 33名

秋季・春季大会で西部地区大会を勝ち上がり、県大会に出場すること、さらに、夏の選手権埼玉大会において上位に進出することを目指して日々の活動に取り組んでいます。また、一人の人として成長することを念頭に置き、限りある高校生活の中で野球と学業に打ち込み、最大限の成果を上げる、という課題と向き合っています。



卓球部

顧問 / 長澤 徹 加納 祐樹
部員数 / 23名

3年前にシード権を失ってから、県大会出場から遠ざかっています。しかし、限られた環境、限られた時間で効率良く練習し、再び上位に進出し県大会に出場することを目標としています。

言うは易く行うは難し、の「文武両道」をモットーに、日々活動を続けています。



クラブ活動

柔道部

顧問 / 薄羽 貴統 金井 圭介 渡邊 文浩
部員数 / 8名

効率よい練習を実践し、文武両道を目指しています。

高校生の柔道人口は近年ますます減少傾向にありますが、本校の柔道部では、質の高い練習を実践し、県大会での上位入賞を目指しています。また、少人数のクラブならではのアットホームな雰囲気大切にしています。



ソフトテニス部

顧問 / 本名 俊之 大内 拓志
部員数 / 24名

ソフトテニス部は、昭和52年に稲橋・松井組が関東大会、インターハイ、国体に出場し、昭和57年には向井・山崎組がインターハイに出場するなど、輝かしい成績を残してきた。

その後、私が平成15年に顧問に就いて以来、中澤久男先生の成績に少しでも近づくことができるようこれまでやってきた。平成16年には関東予選で、品川・安田組がダブル後衛で個人戦県大会に出場して以来、団体もしくは個人戦で毎年度県大会に出場をしている(平成28年度を除く)。

個人戦では、平成18年石黒・池上組、24年山岸・古川組、平成30年に藤井・武内組、令和元年に藤井・大井組、令和3年に原・宮村組が、関東大会出場決定戦に進出したものの、その出場は果たせなかった。

しかし、創立50周年を迎えた今年、インターハイ予選において、団体戦で県ベスト8に入り、北田・松下組が関東大会出場を決めた。関東大会出場は、実に45年振りの快挙である。個人戦関東大会出場は果たしたが、先輩たちと同じく、部員は楽しみながらそれぞれの目標に向かって頑張っている。基本的にペアで戦うソフトテニスだからこそ、これからもお互いを尊重し、切磋琢磨できる場でありつづけたらと思っている。(本名)



バドミントン部

顧問 / 佐藤 富雄 梅川 祥之
部員数 / 45名

我々、バドミントン部は学園創立当初より発足したクラブです。過去には、県大会出場常連校でした。その後、長年低迷する時期がありました。近年徐々に県大会に出場できるようになってきました。

高校に入ってから始める部員がほとんどですが、「諦めず、努力」をモットーに県大会常連校を目指しています。



バレーボール部

顧問 / 柴田 貞雄 松浦 玲奈
部員数 / 10名

バレーボール部は、本校創立とともに発足し、国体予選県準優勝（1975年）、1年生大会地区優勝（1975年・1984年）などの成績を収めてきました。現在は、2013年のインターハイ県予選会以来の県大会出場を目指して活動しています。

卒業して大学生、そして社会人になってからも、定期的に学校に来て部活動を手伝ってくれるOBがいます。学生当時より心身とも大人になり、後輩を指導している彼らの姿を見ると、頼もしく思えます。また、必ず会うと当時の思い出話に花を咲かせます。

昔よりバレーボール人口が減り、バレーボール部のある高校が徐々に少なくなっています。今後のバレーボーラー、そしてこの城西川越の体育館で青春時代を過ごしたOBのためにも、城西川越のバレーボール部の火を灯し続けていきたいと思えます。



クラブ活動

バスケットボール部

顧問 / 小西 徹 松本 豊

部員数 / 27名

バスケットボール部は学園創立当初より発足したクラブです。原俊英先生が長年に渡り顧問をされていたのち、現在は小西が引き継いでいます。

限られた時間の中で、練習の質を高めるために生徒同士で改善点を話し合うなどコミュニケーションを重視しています。チーム一丸となって、県大会出場を目標に、日々活動しています。



サッカー部

顧問 / 日色 眞覚 橋本 大海 前田 拓

部員数 / 46名

部則である「和以技征」(和を以て技を征す)に基づき、数十年ぶりの県大会出場を目標に日々練習に励んでいます。文武両道を基本に、様々なことに挑戦し再び「強い城西川越」を取り戻すために、部員一人一人が強い意志と覚悟を持って活動しています。

夢は、「サッカーで国立、進学先も国立」



陸上競技部

顧問 / 山崎 淳平 永山 雄造
部員数 / 38名

高校陸上競技部は、「夢は僕らを強くする」「ライバルは自分」をモットーとし、仲間と切磋琢磨しながら競技者としてふさわしい精神を育むことを目標としながら活動をしてきた。

普段の練習は、河川敷のメイングラウンドや土手周辺道路、時にはトレーニングルームを活用しながら行っている。長期休暇中は夏に伝統の新潟湯沢・岩原（岩っばら）にて十数校での合同合宿、春には単独で静岡裾野市での合宿を行ってきた。岩っばら合宿の地形を利用した地獄の坂ダッシュやクロカンコースでの時間走など、伝統の厳しいメニューは健在だ。また他校の生徒と声を掛け合い、気力で合宿を乗り切れたことで、それまでとは違う自分になれたと感じたことだろう。卒業後に、厳しい状況に直面したとき、「あの辛い合宿に比べたら大したことはない」と奮起できたという声を多く耳にする。

平成24年度以降の戦績は県大会入賞14、関東大会出場7、全国大会出場3と大きく躍進した10年間であった。どの生徒の活躍も輝かしいものであったが、特に水野智、富越晋三朗、東川隼人の姿は印象的であった。

平成25年度に北関東大会の八種競技で5位に入賞した水野智と関東新人大会の3000m障害で8位に入賞した富越晋三朗は、共に中学時代は野球部であり、陸上競技初心者として入部してきた生徒であった。自ら練習内容を工夫したり、プラスαの練習を毎日行ったりと持ち前の運動センスと努力で成長した生徒であった。

平成26～27年度に飛躍した東川隼人は、内進生で中学陸上部時代は市内大会で3番に入るのがやっとの選手であったが、高校入学後に急成長し、2年秋の新人大会では県で2位（200m）、翌年は北関東大会3位でインターハイ出場まで果たした。また、秋の国体では埼玉代表選手に選抜され、4×100m Rでの6位入賞の立役者となった。

この10年間を振り返った時に、最も印象に残っていることを挙げるとしたら、平成27（2015）年度の4×100m Rチーム（小山瑞己・林洋助・関根輝仁・東川隼人）だ。県大会6位までが関東出場条件の中、5位でなんとか通過したものの、チームの持ちタイムは北関東大会出場24チームの中で18番目。北関東大会ではチームベストをどこまで縮められるかという中で望んだ。結果は予選から大幅にベストを更新し、決勝では強風の難しいコンディションの中さらに記録を更新し、3位入賞でインターハイ出場まで果たしてしまった。

リレー種目には「利得タイム」というものがある。走る4名のベスト記録の合計からバトンワークによってどれだけロスが減らせるかという技術ポイントである。私は、いつも最大限うまくいってマイナス2秒5と見積もっている。例えば100mが12秒丁度のメンバーならば予想タイムは、48秒-2秒5=45秒5といった具合だ。ちなみに2020東京オリンピック日本代表の利得タイムは1秒76で、過去を振り返ると2019年に出た日本記録で2秒8である。翻って、北関東大会決勝の本校の利得タイムはなんと3秒3であった。日本代表チームと比較すると当時の4名が信じられない奇跡を起こしたことが理解できるだろう。もちろん成熟した選手達と伸び盛り的高校生の彼らを同列で比較することは公平でないが、彼らの前向きな気持ちと努力を惜しまなかったそれまでの道のりを考えると、語らずにはいられない。

記憶に残っているのは、輝かしい成績のことばかりではない。合宿での一芸や、OB交流会、文化祭での出来事など様々な情景が目浮かぶ。陸上競技部の活動を通し、記録が向上したときの喜び、伸び悩んだときの苦悩、そして仲間との絆を感じたことは人生の宝であろう。全てが“成長”の証である。それは顧問である我々教員にとっても同じである。

さて、次はどんな“成長”を見せてくれるだろうか。そんな思いで今日も土手の階段をのぼる。

（山崎）



クラブ活動

ラグビー部

顧問 / 並木 大典 田口 智一
部員数 / 34名

“強い”とは何か追い求め、自ら厳しさに身を置けるのが城西川越ラグビー部です。ラグビーを通して、肉体的な強さだけでなく、何ごとからも逃げず、挑戦できるような強い精神を併せ持つ男になることを目標にしています。そんな私たちのプレイスタイルは展開ラグビーです。試合では、パスやランだけでなくキックを織り交ぜながら、縦横無尽に青白のジャージがグラウンドを駆け巡ります。「Challenge with smile」のスローガンのもと、県ベスト4を目指して、かけがえのない仲間たちと濃密な時間を過ごしています。



吹奏楽部

顧問 / 川人 和音 川畑 彩 古内 慎也
部員数 / 7名

コンクール入賞を目指し日々練習にまい進しています。部員のほとんどが初心者ですが、先輩やOBがよく面倒を見てくれて上達していくのが特色と言えます。演奏の向上だけでなくお互いかわりあうことで豊かな人格、人間形成の場にもなっています。

これまでの成績
吹奏楽コンクール
Cの部 優秀賞、優良賞、銅賞
アンサンブルコンテスト
地区大会 銅賞



英語部

顧問 / 嶋田 正人 ジミー テトアヌイ ダニエル ウェランド アラン ウィンフォード
部員数 / 53名

英語部の部員数は、一年生19名、二年生14名、三年生20名の計53名です。文化部ながら、城西川越最大の部員数を誇るマンモスクラブとして活動しています。活動は週2回の昼休みです。顧問の教員の出身国は、アメリカ、カナダ、オーストラリアとバラエティに富んでおり、それぞれの国の生の英語に触れることがことができます。ニュースなどの時事的な話題や、時にはゲームなどすべて英語による活動を行っています。



物理部

顧問 / 田邊 幸雄 土谷 聖 橋本 大海
部員数 / 8名

35年前、私が顧問になったころの活動内容は物理部とは名ばかりの、アマチュア無線による交信が主なものであった。その後、テレビの衛星放送が始まり、生徒は木型づくりから始め、金属の棒と網でアンテナを作った。

そして、曲率半径の中心に受信機を置くと、見事に画像が映し出されたのだ。以来、本格的な物理部の活動が行われるようになり、ホバークラフト、光通信機などなどを作り文化祭で発表してきたが、50周年と共に顧問も替わり新しい歴史が刻まれることになる。(田邊)



クラブ活動

コンピューター部

顧問 / 橋本 昇大 會田 広一 岡崎 恵子
部員数 / 18名

コンピューター部の活動は「体育祭得点集計による学校への貢献」「夏の校内合宿」「文化祭での出店」「卒業生の追いコン」を軸としている。これらの軸は、同好会の時期も含めた35年以上にも亘る活動の中で、意欲的な部員と旧顧問によって構築されたものであるばかりか、現在も卒業生たちによって支えられているものである。この軸があることで、近年の「何となく入部した」という生徒も目標をもって活動できている。



軟式野球同好会

顧問 / 齋藤 達也 須田 信之
部員数 / 20名

軟式野球同好会は、鈴木孝三先生が長年に渡り顧問をされていたのち、2012年から齋藤が引き継いでいます。各学年10名を超えていた時もありましたが、ここ数年は少ない人数の中で、平成25年の秋季県大会で優勝して以来の県大会優勝を目指して活動しています。



サイクリング同好会

顧問 / 舛田 智哉 駒形 樹那
部員数 / 15名

季節ごとに変わりゆく景色を堪能しながら、「風と戯れる」をモットーとして、隔週土曜日に活動しています。入間川の土手には「狭山自転車道」が整備されており、加えて「荒川自転車道」にも近いため、サイクリストにとって本校の立地は最高の場所であると言えます。基本的には狭山自転車道を西に向かって走行し、西武文理高校付近（安比奈親水公園）、もしくは自転車道終点まで走行します。競技部ではないので、あくまでもサイクリングを楽しむことを目的に活動しています。



鉄道研究会

顧問 / 古内 慎也 山口 瑞来
部員数 / 18名

鉄道研究会では、中学鉄道研究部とともに「鉄道を楽しむ」ことをモットーに活動しています。日々の活動内容は、鉄道模型を走らせることを中心に、メンテナンスやジオラマづくりにも取りかかり、文化祭ではジオラマの中を長編列車が駆け抜けます。年に1度の夏合宿では、目玉となる乗って楽しい列車を求めて、乗り倒しの旅を行います。



クラブ活動

エコカー同好会

顧問 / 岡崎 恵子 山口 瑞来 須田 信之 松岡 由晃
部員数 / 13 名

秋に、本田技研工業株式会社が主催する全国大会「Honda エコマイレージ チャレンジ 全国大会」に出場しています。この競技では規定されたコースを規定時間内で走行し、その燃費を計測します。最も低燃費のチームが高い順位を獲得します。そのため、日々の部活ではエコカーの走り方の研究および走行の練習をしています。



剣道部

顧問 / 飯田 圭祐 浅野 英吾
部員数 / 高校 9 名 中学 2 名

高校は各学年に剣道部員がおり、上級生が下級生に教えている様子や、お互いにアドバイスし合っている様子が見られます。部員同士が大変仲の良い部活動です。

剣道は「礼に始まり礼に終わる」といいますが、剣道は礼儀作法を非常に重んじるスポーツです。生徒が剣道を通して礼儀作法を学び、人として成長できることを願って指導しております。



科学部

顧問 / 塩田 昌弘 伊藤 一雄
部員数 / 高校 8 名 中学 5 名

日本化学会関東支部主催第30回化学クラブ研究発表会 口頭発表部門 金賞受賞
「ビタミンCの還元性について」 詳細は「化学と教育」実験の広場

日本化学会関東支部主催第31回化学クラブ研究発表会 口頭発表部門 金賞受賞
「振動反応のメカニズムの探究」

科学教育振興展覧会・西部地区展(10月に東洋大学)や
理科教育研究発表会(2月に埼玉大学)には、ほぼ毎年出席

科学部は、中学・高校合同で活動しています。高校生は「自ら計画を立て実行する」という方針のもと、外部での研究発表のために日々トライ＆エラーを繰り返しています。中学生は文化祭での演示実験や、高校生の実験の助手が主な活動です。また一人っ子の部員も多いため、先輩後輩という関係よりは、兄弟のように接している場面も多く見受けられる部活動です。

今までの活動で印象に残っているもの1つに、1度目の「化学クラブ金賞」があります。数年間の研究の成果を12分(質疑応答を入れて15分)のパワーポイントを用いたプレゼンに、全てをかけなくてはなりません。プレゼンは学会も行われる設備の整った広い会場で行われ、最前列は大学の教授、周りを他校の生徒・顧問200人以上が一点に視線を送ります。部員が夜遅くまで残って考察をまとめている時に、何気なく言った「まだ9時か」という言葉は、今でも記憶に残っています。

【城西川越 広報「ひばり」第142号より一部抜粋】

ビタミンCの研究も3年目に突入した高校2年は、私たちにとって科学部最後の年でした。新たな分析方法を用いて実験の精度を上げるなど、とにかく悔いの残らない1年にしようと思いに決め、ほぼ毎日メンバーと実験に取り組みました。考察では、ビタミンCという目には見えない分子がどのように分解されるのか、そのメカニズムの探求という、未知の領域を追求する面白さがありますが、実際は簡単に答えが出ず、何日も何日も考えなければならぬ難題の連続でした。

当日の朝は風が強く寒い朝でした。やるべきことはやったという気持ちではありましたが、やはり非常に緊張していました。私たちの発表が始まり、ビタミンC分解のメカニズムのアニメーションが動くと、会場から「おお」という声があがりました。発表後の質疑応答など会場からの反響もなかなかのもので、全力を尽くせたという確かな達成感がありました。閉会式で最後に金賞として学校名が呼ばれた時は、本当に信じられませんでした。賞状をもらって席に戻り、塩田先生と握手した時にやっと理解できた感じがしました。その瞬間、今まで一緒に頑張ってきた科学部のメンバーの皆への感謝の気持ちと科学部生活5年間の努力が結晶になった喜びで、思わず涙を流してしまいました。科学部部長 宇田川裕多郎

また、2021年3月30日の研究発表会は、Zoomによる初のオンライン開催でした。一年前から実験も思うように進まず、エントリーをためらう時期もありましたが、最後は生徒に任せました。通常3月の期末試験明けからが、いよいよスライド準備や追実験が佳境になるのですが、部員の出席率が低い日が続いていました。実験の人数が足りずに私も白衣を着て、結果の記入を手伝うこともありましたが(これも初です)。後日談ですが、実験室で実験する部員と、在宅で自分のパソコンでスライドを作成する部員とに分担していて、実験結果もその日のうちにメールなどで共有していたようです。完全に顧問の範疇を超えた瞬間でした。直前1週間は全員が揃って、発表練習のダメ出しや、スライド修正を行いました。当日は、その春に卒業した部員も駆けつけてくれて、トラブルに備えました。この卒業生の最後の発表会(2020年3月末)は開催の1ヶ月前に中止が決まり、少し複雑な表情でサポートしてくれました。本校は高校で登場する定量実験を一通り駆使した「ケミカルガーデン」についての研究発表を行いました。発表を終えて、最後の質疑応答で少し戸惑うこともありましたが、無事?終わることができました。発表を終えて部員の「やり切った」という充実感に満ちた表情は目に焼き付いています。(塩田)



「化学と教育」61巻11号(2013年)実験の広場にて掲載



化学クラブ研究発表会 城西川越
J-Stageからダウンロードできます。



クラブ活動

美術部

顧問 / 清水 啓一郎 荒木 俊行
部員数 / 高校 28 名 中学 7 名

美術とは自らの心と対話することです。

私は生徒たちに是非自らと深く向き合い、それを存分に楽しんでほしいと願い、見守るような気持ちで制作に寄り添っています。

若い心に蓄えられたイメージは皆素晴らしく、全国高等学校総合文化祭や埼玉私学文化祭にはいつも力作が並び、校内外から高い評価を得ています。

美術は他の教科と違い、ほとんどの生徒にとって大学受験に直結するものではありません。しかし、目標をもって計画を立てアイデアを絞り、予想外のアクシデントにも臨機応変に、かつ丁寧に対応しながら一つの作品を完成させる経験は、大人として社会で生き抜くために重要な人間力を養い、計画性や自己管理能力を深めるだけでなく、心も成長させるものだとは私は信じています。真っ白な紙に絵の具をのせるというのはなかなかの勇気が必要です。時には思っていたようにならないことも、失敗することもあるでしょう。しかしどんな結果であれ、最後まで投げださずにやりきったその先には、とても大きな充実感と少しの反省、そしてひとまわり大きくなった自分が待っています。これらは少なからず受験を乗り越える力にも通ずるものではないでしょうか。

美術部員たちは趣味のイラストから美大受験を見据えたデッサンまで、様々な距離感で作品と向き合っています。作品のスタイルは違っても、悩み生み出した作品には制作する喜び楽しみが溢れています。内なるものを目に見える形で外へ発信する力は学校生活のみならず、これからの時間をきっと豊かなものにしてくれるでしょう。

彼らがこの先どこかで美術に関わるにせよ、関わらないにせよ、いつか彼らが生み出した作品や仕事に出会えることを、私はとても楽しみにしています。

(清水)



■ 進学実績 (2007~2021) / 東京藝術大学 合格者数 8 名



和太鼓「櫂」

顧問 / 土谷 聖 松岡 由晃 國分 由貴

部員数 / 高校 41 名 中学 16 名

私たち城西川越和太鼓「櫂（けやき）」は、生徒会役員とその有志たちによって、2005年6月に発足しました。そして、「城西川越を代表する活動の創造」、「学校行事の活性化」、「地域貢献」という3つの理念を掲げて、日々活動しています。年間30回以上の公演の他に、お祭りの手伝いや地域清掃のボランティア活動も行っています。

普段の練習は、東館2階と、時にはトレーニングルームを活用しながら行っています。地元のお祭りや特別養護老人ホームだけではなくスポーツイベントや市のイベントといった公演依頼もあり、年々活動の幅を広げていきました。

まず、平成18年度の第3回郷土芸能祭で最優秀賞を受賞し、平成19年度の第31回全国高等学校総合文化祭島根大会郷土芸能部門に出場をしたのを皮切りに、平成20年度の第32回群馬大会、平成22年度の第34回宮崎大会、平成26年度の第38回茨城大会、平成28年度の第40回広島大会、平成30年度の第42回長野大会、令和3年度の第45回和歌山大会と、全国高等学校総合文化祭（郷土芸能部門）には、15年間で7度の出場を果たすことが出来ました。

その後、平成31年度（令和元年度）の第10回全国高校生太鼓甲子園（第34回富士山太鼓まつり内）に出場し、高校和太鼓全国大会の一つである大会に出場を果たすことが出来ました。15年間で合計8回の全国大会出場となりました。

この他にも、関東地区高等学校和太鼓選手権には、第2回大会より10年連続出場をしています。

その中でも、平成30年度の第42回全国高等学校総合文化祭長野大会、並びに令和3年度の第45回全国高等学校総合文化祭和歌山大会は、特に印象に残るものとなりました。この大会では、河越城に立て籠もる北条綱成の決意と北条氏康の北条家当主としての苦悩、包囲網を崩すための奇襲攻撃を仕掛ける様子を表現した曲目、「熾烈～河越城の戦い～」を演奏しました。

本校がある、「小江戸川越」の歴史の中の1ページを和太鼓演奏に込め、これを表現するため、昨年の県大会からアレンジを加え、コーチの先生と試行錯誤しながら日々精進して参りました。

残念ながら、どちらの全国大会も上位入賞という夢は叶いませんでした。しかし、無事に自分たちの演奏を貫くことができ、何よりも私たちの思いをこの全国の舞台上で披露、表現できたことはメンバーにとって、かけがえのない財産になったと確信しています。また、先輩たちの雄姿を目に焼き付けた後輩たちも、この経験を今後の活動の励みとしてくれるだろうと思っています。

本番は8分という短い時間の中はではありませんでしたが、この全国大会の8分のために、高校3年生は、3年間努力をしてきました。どちらの大会も高校3年生と歩んできた3年間を思い出し、本当に色々なことがあったと噛みしめて、「熾烈～河越城の戦い～」を聴きました。そして、彼らが最後まで悔いを残さない演奏ができただけでなく、トラブルもなく無事に演奏を終えたことで、私自身も胸をなで下ろしました。

演奏後の写真撮影では、彼らが笑顔で爽やかに写真に写っていたのが印象的でした。彼らにとってみると、本当に悔いが残らない演奏だったと感じました。

最後になりますが、このような最高の舞台上で演奏できたことは、私たちの力だけではなく、保護者、OB、先生方、地域の方々をはじめ、鎬を削った埼玉県各校の仲間や郷土芸能部門の大会運営に携わったすべての方々のご協力の賜物と感謝いたします。

私たち、和太鼓「櫂」は創設時から「地域貢献」や「観客を楽しませる演奏」の精神をもとに精進してきました。この精神を忘れず、これからも和太鼓の演奏を続けていきます。

（土谷）



クラブ活動

生物部

顧問 / 伊藤 一雄 會田 広一
部員数 / 高校14名 中学19名

平成21年度に中学生物部、平成23年度に高校生物研究会として設立され、平成28年度より高校も生物部となりました。「欲しい物は自分で造る。欲しい生き物は自分で殖やす」をモットーに、城西川越周辺の身近な自然を主な題材として活動しています。

設立当初より、川島町に生息する絶滅危惧種ヤリタナゴの保護活動の一環としてその産卵母貝となるイシガイ・ドブガイの繁殖と安定飼育を目指した取り組みを続けており、平成27年には構内の生物多様性実験池「メダカの里」におけるイシガイの繁殖成功事例が埼玉新聞に取り上げられました。

現在はヤリタナゴの人工繁殖とイシガイ・ドブガイの繁殖・安定維持への挑戦、メダカの里の管理と生物調査、魚の透明骨格標本の作製、ウニの飼育繁殖のほか、新たにタマムシとカブトムシが殖える環境づくりへの模索を始めました。

10年後20年後に、より豊かな自然が体験できるよう、今後も活動していきます。



囲碁・将棋同好会（高校） 囲碁・将棋部（中学）

顧問 / 渡邊 文浩
部員数 / 高校12名 中学7名

高校囲碁将棋同好会、中学囲碁将棋部は週に3回の活動の中で先輩後輩の良好な関係を保ちながら、お互いに切磋琢磨し、勉強との両立をはかりながら、棋力の向上に努めています。決して県内の強豪校というわけではありませんが、過去には囲碁で県大会個人3位、将棋で県大会団体7位になった実績をもつ古豪です。これからも大会で活躍できるように努力を継続して参ります。

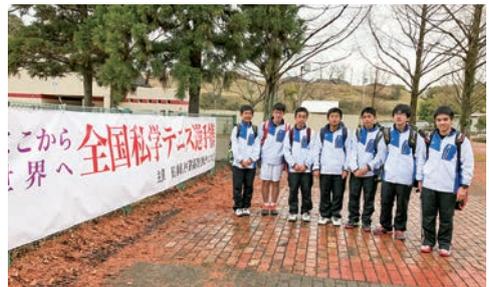


テニス部

顧問 / 江原 良浩 森 敬理 角田 玲於奈
部員数 / 26名

テニスは生涯スポーツといわれます。中学創立以来、数多くの部員がテニス部を巣立っていきましたが、現在でもプレーヤーとしてテニスを楽しんでいる卒業生が多いようです。

初心者で始める生徒が多いため、足でポイントをもぎ取る“粘り強いテニス”を皆が意識しています。テニスは個人戦と団体戦の両面がありますが、団体戦になるとチームのためにより力を発揮できる、そのような強い心を持った選手が多いことが本校テニス部の特徴です。



野球部

顧問 / 篠原 智 駒形 樹那 齋藤 達也 伊藤 智雄
部員数 / 25名

中学野球部は、県大会出場を目指して日々練習に励んでいます。主な練習としては、キャッチボール、トスバッティング、バント、ノックなどの基礎的な練習に加えて、ケースノックなどの発展的な練習も行っています。

また、野球の能力向上だけでなく、「挨拶」「身だしなみ」「時間管理」といった日々の学校生活に対する姿勢を大切にすることで、生徒の人間的な成長に繋げています。



クラブ活動

卓球部

顧問 / 加納 祐樹 長澤 徹
部員数 / 16名

経験者がほとんどいませんが、ゼロから成長できる部活動をモットーに、新しい経験や可能性を見出し、心身の健康及び成熟を目的として取り組んでいます。部員たちは県大会出場を目標に、日々技術の向上に励み切磋琢磨しています。



バスケットボール部

顧問 / 星 遼人 小西 徹
部員数 / 21名

中学バスケットボール部は県大会出場を目指し、日々取り組んでいます。ほとんどの部員が中学生になって初めてバスケットボールを本格的に練習しますが、初心者でも中学3年生になる頃には見違えるほど上達します。練習メニューはドリブルやパスやシュートなど基礎的な事から取り組み、3対3や4対4などゲーム形式の練習も行います。他校との練習試合も行うのでバスケットの技術だけでなく、挨拶や礼儀など人間として成長していけることを目標に日々練習に取り組んでいます。



サッカー部

顧問 / 橋本 大海 前田 拓
部員数 / 22名

私たち中学サッカー部は、サッカーの技術向上と、自立した一人の人間に成長することを目標に活動しています。

そのために、日々の厳しい練習を、チーム全員で励ましあいながら取り組んでいます。できないことや苦手なことも、仲間と一緒に乗り越えながら、頑張りぬく力を養い、最後の一秒まで戦い続けるそれが私たち中学サッカー部の伝統となっています。

これからも先輩たちからの伝統を受け継ぎ、サッカーを楽しみ続けていきたいと思っています。



陸上競技部

顧問 / 山崎 淳平 永山 雄造
部員数 / 6名

陸上競技部は、「ライバルは自分」ということをモットーに活動しています。我が中学陸上部の最大の特徴は、高校生との合同練習という点にあります。毎年春には中1から高3まで6学年が同時に練習を行っています。記録会や合宿も一緒に行うので、より「チーム城西」の感覚が強いと感じます。6年一貫指導から、県大会入賞者や関東・全国大会出場者も出ています。周りの環境を変えることなく、6年先を見据えた安定した活動を心がけています。



クラブ活動

ラグビー部

顧問 / 並木 大典 永井 悠太郎
部員数 / 32名

ラグビーは自己犠牲のスポーツと言えます。私たちはラグビーを通して精神的、肉体的に強く逞しい人間になることを目標に活動しています。辛く、厳しい練習もチームで笑って乗り越えられるよう雰囲気作りを大切にしながら日々練習しています。何ごとも一生懸命やりきることで見えてくる世界があると信じて、仲間たちと今日も楯円球を追いかけます。

平成27年度 新人兼県民体育大会 埼玉県大会
〔ラグビーフットボールの部〕優勝

平成30年度 新人兼県民体育大会 埼玉県大会
〔ラグビーフットボールの部〕優勝

令和元年度 第39回東日本ラグビーフットボール大会
埼玉・栃木県予選 優勝



ハンドボール部

顧問 / 米谷 祥平 安藤 努
部員数 / 8名

中学ハンドボール部は県大会勝利を目指し、日々取り組んでいます。マイナースポーツのため、部員数が少ないですが、高校ハンドボール部と合同で練習することでレベルアップを図っています。

また、中学生からハンドボールを経験している高校生はさほど多くないことから、高校では中心選手として活躍し、ベスト8になることを目標としています。



バドミントン部

顧問 / 佐藤 富雄 梅川 祥之
部員数 / 14名

我々、中学バドミントン部は創部約10年とまだ歴史が浅いクラブです。

「自分で選んだバドミントン、3年間最後まで続ける」をモットーに練習に取り組んでいます。

現在、コロナ禍で思うような練習時間が取れない中、コートに入っている時は元気いっぱい練習に励んでいます。

「目指せ県大会出場！！」



吹奏楽部

顧問 / 川人 和音 川畑 彩 古内 慎也
部員数 / 5名

コンクール入賞を目指し日々練習にまい進しています。部員のほとんどが初心者ですが、先輩やOBがよく面倒を見てくれて上達していくのが特色と言えます。演奏の向上だけでなくお互いかわりあうことで豊かな人格、人間形成の場にもなっています。

これまでの成績

吹奏楽コンクール

Cの部 優秀賞、優良賞、銅賞

アンサンブルコンテスト

地区大会 銅賞

ソロコンクール (クラリネット)

地区大会 金賞



クラブ活動

鉄道研究部

顧問 / 古内 慎也 山口 瑞来
部員数 / 21名

鉄道研究部では、高校鉄道研究会とともに「鉄道を楽しむ」ことをモットーに活動しています。日々の活動内容は、鉄道模型の扱い方の指導から始まり、安全に走らせることを中心に、メンテナンスやジオラマづくりも始めました。文化祭ではその成果として、ジオラマの中を長編列車が駆け抜けます。年に1度の夏合宿では、目玉となる「乗って楽しい列車」を求めて、乗り倒しの旅を行います。



ロボット部&エコカー部

顧問 / 岡崎 恵子 山口 瑞来 須田 信之 松岡 由晃
部員数 / ロボット部 37名 エコカー部 3名

ロボット部

ロボット好きの生徒が集まり、ロボットの作成、作ったロボットやレゴマインドストームを動かすためのプログラム作成などを楽しんでいます。

部員たちはaiboを可愛がっており、オープンスクールでは参加している小学生にaiboとの遊び方を教えてあげることもしています。

手先の器用さ、作成にかかる集中力、プレゼンテーション能力などそれぞれが自分の得意分野を生かすことで日々成長しています。



エコカー部

秋に、本田技研工業株式会社が主催する全国大会「Honda エコマイレージ チャレンジ 全国大会」に出場しています。この競技では規定されたコースを規定時間内で走行し、その燃費を計測します。最も低燃費のチームが高い順位を獲得します。そのため、日々の活動ではエコカーの走り方の研究および走行の練習をしています。





JOSAI KAWAGOE
ANNIVERSARY 50th & 30th



学校行事今昔



体育祭





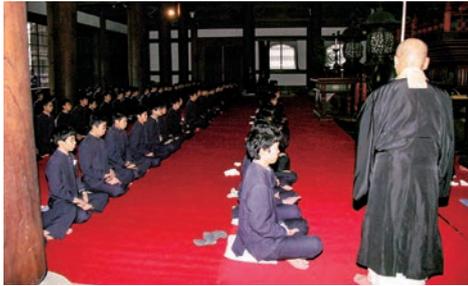
文化祭



JOSAI KAWAGOE ANNIVERSARY 50th & 30th

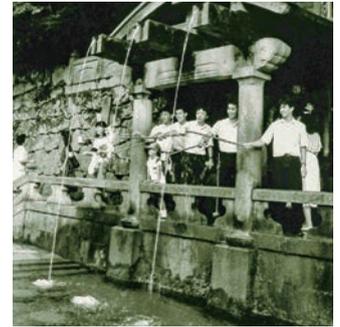


学校行事今昔



修学旅行 (中学校)





修学旅行 (高等学校)



JOSAI KAWAGOE ANNIVERSARY 50th & 30th

学校行事今昔



校外学習 (中学校)





校外学習 (高等学校)



JOSAI KAWAGOE ANNIVERSARY **50th & 30th**

生徒会活動

高等学校

歴代生徒会長

年 度	期	高校生徒会長	年 度	期	高校生徒会長
昭和 47	1	木ノ内 宜 義	平成 9	26	木 村 夏 雄
昭和 48	2	前 川 雅 文	平成 10	27	赤 坂 繁 和
昭和 49	3	山 中 仁	平成 11	28	町 田 知 也
昭和 50	4	高 橋 達 昭	平成 12	29	竹 田 純
昭和 51	5	日 比 弦	平成 13	30	塩 見 哲 志
昭和 52	6	田 中 均	平成 14	31	萩 原 直 登
昭和 53	7	太 田 滋 久	平成 15	32	糟 谷 正 樹
昭和 54	8	和 田 郁 雄	平成 16	33	杉 田 真 友
昭和 55	9	原 田 淳	平成 17	34	郷 田 健 太
昭和 56	10	泉 伸 夫	平成 18	35	野 田 裕 太 郎
昭和 57	11	越 後 慶 三	平成 19	36	門 間 亮 介
昭和 58	12	佐 藤 晃 治	平成 20	37	松 岡 由 晃
昭和 59	13	黒 田 朋 広	平成 21	38	水 島 淑 之
昭和 60	14	森 谷 竜 太 郎	平成 22	39	竹 内 啓 瑛
昭和 61	15	新 井 雄 一	平成 23	40	山 本 直 史
昭和 62	16	大 里 浩	平成 24	41	三 橋 昌 朗
昭和 63	17	菅 大 治 郎	平成 25	42	松 本 健
平成 1	18	大 畠 崇 央	平成 26	43	吉 増 垂 久 里
平成 2	19	宮 嶋 直 人	平成 27	44	若 山 武 史
平成 3	20	星 秀 夫	平成 28	45	橋 本 拓 実
平成 4	21	若 園 雄 志 郎	平成 29	46	根 岸 寛 太
平成 5	22	吉 田 大 作	平成 30	47	森 陽 太
平成 6	23	杉 本 征 一 郎	令和 1	48	宮 寄 友 吾
平成 7	24	小 早 川 裕 邦	令和 2	49	木 村 海 斗
平成 8	25	原 田 貴 之	令和 3	50	橋 本 真 翔

50期生徒会長 橋本 真翔

本校は、本年度創立50周年を迎えました。この50年という長い歳月の重みには、私たちの想像の遠く及ばないほど、先輩方の喜びや悲しみ、そして数々の栄光、時には挫折。一言では語り尽くせないたくさんのドラマがあったと思います。これらを思うと、今更ながら、この城西川越に身を置き、学んでいることに幸せと責任の重さを感じます。50周年を迎えたからこそ、今の私達がこれからの城西川越を左右する立場にいると言っても過言ではありません。

現在の日本は長期にわたる新型コロナウイルスの影響によってとても厳しい時代を迎え、今を生きる上で避けて通れない問題が山ほどあります。ですが、私たち若者はこれらの困難に直面しているからこそ、今までにない劇的な体験ができていないのではないのでしょうか。またその体験を活かして日本の次世代を担う私たち若者が持つ力強さや様々な可能性を示し、世界をも動かして行く、力と責任が課せられていると私は思います。

最後に私たち生徒会は、城西生全員が、人生で一度きりの充実した高校生活を送り、心置き無く未来の日本へ羽ばたいて行けるよう全力を尽くしていくことを誓い、生徒会長の言葉とさせていただきます。

中学校

歴代生徒会長

年 度	期	中学生徒会長	年 度	期	中学生徒会長
平成 4	1	境 田 優 太	平成 19	16	水 島 淑 之
平成 5	2	境 田 優 太	平成 20	17	竹 内 啓 瑛
平成 6	3	泉 航	平成 21	18	谷 川 信 也
平成 7	4	木 村 夏 雄	平成 22	19	井 上 孝 太
平成 8	5	赤 坂 繁 和	平成 23	20	福 田 ひかる
平成 9	6	茅 田 散 史	平成 24	21	西 村 仁 志
平成 10	7	佐々木 貴 志	平成 25	22	徳 永 翔
平成 11	8	三 嶋 唯 之	平成 26	23	柳 川 佳 祐
平成 12	9	高 橋 千翔良	平成 27	24	足 立 拓 哉
平成 13	10	栢 森 健 介	平成 28	25	石 井 春 希
平成 14	11	泉 秀	平成 29	26	小 川 雄 大
平成 15	12	大 野 祐 太	平成 30	27	木 村 海 斗
平成 16	13	野 田 裕太郎	令和 1	28	多々良 丞
平成 17	14	岩 田 全 主	令和 2	29	内 田 悠 斗
平成 18	15	熊井戸 悠 喬	令和 3	30	高 橋 遼太郎

30期生徒会長 高橋 遼太郎

今年度、城西川越中学校は創立30周年の節目を迎えました。私たち生徒会の活動も多くの先輩方や支えて下さる方々のおかげでこれまで続けることができました。

先輩方が行ってこられた活動は、入学式における新入生へのお祝い（お赤飯作り）や、歓迎式の実施、秋の収穫祭や年末の餅つき大会、大学入試に臨む先輩方への激励（必勝汁作り）等々、生徒の皆さんと密に触れ合い、盛り上げてきたものばかりです。私はこのような活動こそが生徒会の本来の活動ではないかと思います。だからこそ、この2年あまり、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、私たちの学校生活に様々な制約が設けられ、活動を制限されてしまったことが残念でなりません。

しかし、この30年の間にも数多くの困難はあったはずですが、それを乗り越えて歴史を作って下さった先輩方のおかげで、現在の城西川越中学校があるのだと考えると、在校生の私たちは自分たちのためにも、未来の城西生のためにも、この困難を乗り越えていかなければなりません。これから50周年、100周年へと城西川越中学校がさらに発展していくことを望み、私たちは『報恩感謝』を胸に前進していきます。

生徒会活動

生徒会の仲間と共に

32期生
(2005年度卒)

杉田 真友



地域貢献を掲げて

33期生
(2006年度卒)

岡崎 翔太



創立五十周年を迎え、先生方、卒業生・在校生・関係者の皆様に御祝いと感謝を申し上げます。

私は生徒会長として、高柳先生に指導を仰ぎ、生徒会の仲間と共に、在校生の学校生活の充実や地域貢献を目標に邁進していました。収穫祭等イベントの運営、当時制限されていた携帯電話の校内持ち込みに関する活動、他校生徒会との交流など、様々な機会をいただきました。城西で過ごし得られた経験、人とのご縁が今も私の中で生きています。

創立50周年、誠におめでとうございます。

私は、和太鼓「櫂」の初代長（おさ）を経験させていただきました。当時は、太鼓が足りず古タイヤで練習することも。それでも「地域貢献」を掲げて、近隣の老人ホーム等で開催する演奏会が、楽しみであり誇りでした。

現在は、町や村の活性化に取り組む仕事に携わっています。キーワードは、「小さくてもキラリと光る町村づくり」。「櫂」の「地域貢献」が、今も私の中に息づいています。



～生徒会活動を振り返って～

将来が走り出す瞬間

35期生
(2008年度卒)
滝沢 航平



まず初めにこの場をお借りして、楽しい高校生活を送らせて下さった先生方、先輩、同期、後輩、在学中に関わって下さった全ての方々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。私は何かを選択する時、面白そうと思った方を選択するようにしています。この生き方は和太鼓櫓に加入するか迷っていた際に恩師の先生から言われた言葉に影響を受けております。また、進路を決める際に担任の先生に言われた“他人を説得できない程度の夢なら叶える事は出来ない”という言葉は、自分の夢をおこがましく思い、口に出せなかった私の決心のきっかけとなりました。高校でのかけがえのない経験が私を育ててくれました。現在は国内・海外すべての路線を担当しております。なかでも思い出の詰まった母校を横目に飛ぶことのできる成田発福岡行の路線が最も好きです。私は今後も楽しみながら自分の夢の方に歩いて行けるよう頑張ります。この度は創立50周年、誠におめでとうございます。

【在学中】
和太鼓「櫓」第3期副長

【現職】
Peach Aviation株式会社
運航乗務員（パイロット）

救急医として

36期生
(2009年度卒)
熊井戸 悠喬



私は内部進学生として6年間通っていました。同級生や先輩・後輩・先生方にも恵まれ、充実した学生生活でした。卒業して10年以上経ちますが、今でも多くの中高時代の友人と連絡を取り合い、城西川越で得たのはまさに人との繋がりがだと思っています。

現在は救急医として、日々診療に励んでいます。過酷な現場ではありますが、毎日闘えるのも学生時代の経験が活きていると思っています。いずれは埼玉の医療貢献ができればと思っています。

今後も城西川越の伝統が櫓の木のように伸びていきますように。

この度は50周年 誠におめでとうございます。

【在学中】
サッカー部（中学）・和太鼓「櫓」・生徒会副会長

【現職】
東京ベイ・浦安市川医療センター
救急集中治療科 医師



生徒会活動

「今」がある意味

38期生
(2011年度卒)

竹内 啓瑛



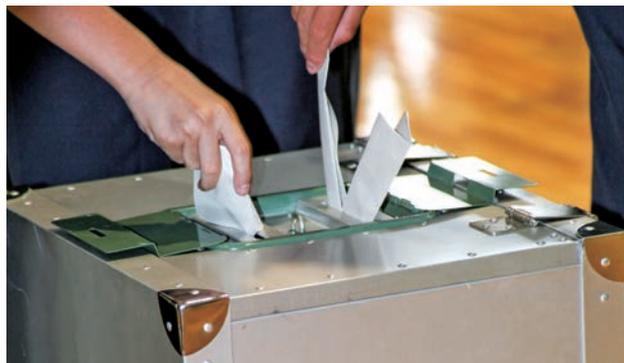
城西川越学園が創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

在学時に先生方、友人、先輩後輩から多くを学べたことが一番の宝と考えております。特に生徒会活動を通して学んだ、「1から物を考えるのではなく、「0から1を考える」、この経験は社会人となった今でも自分を助けるものであり、私にとって城西での生徒時代は非常に大切なものであったと考えております。

城西川越学園の益々の発展を心から願い、お祝いの言葉といたします。

【在学中】
生徒会長

【現職】
総務省職員



50周年ロゴマークに寄せて



Josai Kawagoe High School



Josai Kawagoe Junior High School

田口教頭先生より本校50周年記念のロゴマークを作成せよとの身に余る大役を仰せつかったのは昨年春のこと。

歴史ある城西川越の大切な半世紀の記念の証を作る重責を任せていただける幸福と、添えられた「タダで」の言葉に二重の衝撃を受けつつ、長年のご恩に報いるべく感謝の気持ちを込めてお引き受けした次第です。

デザインするにあたり私がコンセプトの中心に据えたかったのは、いつか渡辺校長先生が仰っていた“良い学校には木がある”という言葉です。校門上面に凛々しく枝を伸ばす大樺は言わずと知れた本校の校木ですが、毎年とてもダイナミックに青葉を繁らせ、燃えるように紅葉し、盛大に葉を落とし、凍える冬を耐え忍んで春にはひと回り大きくなった姿で一斉に芽を吹いてくれます。この美しくしなやかな木を背に日々成長し巣立っていく生徒達のいる学校の景色が私はとてもとても好きです。思春期の数年間は、人生の中でも他とは全く異なる体感速度で過ぎるものだと思います。心と体を強く育てるべきこの特別な数年間をここで過ごす生徒達に陽の光の存在を伝え、適切に水を与え、健やかな成長を心から願い助けることが我々教員の仕事の全てであり、学校という場所の意味そのものなのではないでしょうか。良い学校には木がある。それは、木を育てる良い風土や日差しがあるべき、ということなのかも知れません。

ロゴマークは50th Anniversaryを囲むように、開校記念である6月の樺の葉をあしらひ、シンボルマークの校章を中心に50年目を解りやすく伝えるデザインに仕上げました。これまで育んできた歴史を現代に、また未来に向けてここから新たに育てていく、生徒達は勿論のこと、我々教員が胸を張って城西川越を誇れるよう想いを込めて仕立てたつもりです。本校の更なる50年の繁栄と、このマークが広く関係者の皆様に親しんでいただけますことを願ってやみません。

芸術科 美術教諭 清水 啓一郎

50周年記念関連事業におけるデザイナー一覧

- 50周年ロゴ30周年ロゴマーク作成
- スクールバス新ラッピングデザイン
- 50周年記念動画
- 50周年記念チラシ
- 50周年30周年懸垂幕
- 50周年記念タンブラー(報恩感謝版)
- 50周年記念タンブラー(けやき君版)
- 50周年記念ポロシャツ(白・紺)
- 30周年記念ポロシャツ(白・紺)
- 30周年記念トレーナー
- 30周年記念パーカー
- 50周年記念ノート
- 50周年記念付箋
- 50周年記念ハガキ
- 50周年記念封筒
- 50周年記念クリアファイル
- 50周年記念スクールバス新ラッピング印刷手揚げファイル
- 50周年記念ステッカー(白・黒)(カッティングシート版)
- 50周年記念ステッカー(白・黒)(透明台紙版)
- 50周年記念うちわ作成 2021・2022
- 川越市役所 窓口封筒広告(50周年版)
- 50周年記念ビクセル画
- 学園案内 2021・2022
- 学園ポスター(中)2021・2022
- 学園ポスター(大)2021・2022

Special Thanks

(株)アイガー様・アスフィール(株)様・(株)エデュケーショナルネットワーク様・(有)エイチアイランド様・尾上紙店様・(株)グランドパワー様・川越市役所広報室様・ギネスワールドレコーズジャパン様・(株)ティーエーシー様・(株)デサン様・六三四堂印刷(株)様・(株)吉澤様・SAエイト(株)様

ご協力ご協賛くださった皆様、お気にかけてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



JOSAI KAWAGOE ANNIVERSARY 50th & 30th

マスコットキャラクター「けやき君」



26期生(1999年度卒)

「櫻が見守る城西の学舎のもとで」

二川 秀史

1999年、私が高校3年生の時に「けやき君」は生まれた。「けやき君」が生まれたときは、まだ名はなく、当時何をモチーフにするか？を最も思案したと記憶している。

また、モチーフ＝「シンボル」に加えて、デザインする際に意識したのは、「シンプル」と「シンメトリー」だ。

「シンプル」は、サイズフリーで使用される可能性が高いマスコットに必要な要素として、小さいサイズでも視認できるようにするため。「シンメトリー」は、単に対称構造が幾何学的に美しいと思っていたからだ。博士論文のテーマであった炭素の第三の炭素同素体である籠状化合物フラーレンを選択したのも、対称構造に魅力を感じているからかもしれない。

さて、モチーフを“櫻”にした理由であるが、悩んだあげく、席が後ろだった学友への「城西川越と言えば？」というシンプルな問いの答えが決め手であった。その他の有力な候補としては、当時、吹奏楽部に所属していたこともあり、校歌にもある“雲雀”という案もあったが、正直画力が足りず、上手く書けなかったというのも、モチーフを“櫻”にした1つの理由でもある。

最後に、「けやき君」を生み出してから20年。今、自動車・二輪・汎用機器メーカーにて、これまでの商品カテゴリーにない新しい商品開発のプロジェクトリーダーとして、新しいモノやコトを生みだすため奔走している。2019年から始まった私自身にとっても、新しいチャレンジは、あと一步で実を結ぼうとしている。新しいモノやコトを生み出すこと。それは多くの悩みや苦難の連続である。「けやき君」を生み出した経験、それはそんな新しいものを生み出そうとしている私を形作る大きな1つの糧になっている。そんな私を育てた城西の学舎が、これからも、希望のもとに集まった遅く、雄々しい若人達が“櫻”のように戦ぎ、生長できる場であり続けてほしいと願っている。





《「けやき君」の歴史》

1999年、新藤宣夫学園長（当時校長）の発案により、アメリカの大学のようなマスコットキャラクターを、本校でも作るようになりました。「生徒と教員全力の力でマスコットキャラクターを決めたい」という新藤宣夫学園長（当時校長）意向の下、有志によるイラスト案を募集することになりました。その結果集まったイラスト案の総数は352に上り、城西と掛けた「サイ」、校歌の歌詞に登場する「ヒバリ」、学校の近くに生息する「ザリガニ」など、さまざまな候補作品が提出されました。美術教員の西川完司先生（当時）と生徒会の生徒で候補作品4点を選出した後、生徒による最終投票の結果、「けやき君」が本校マスコットキャラクターに決定しました。

「けやき君」の原案をデザインしたのは当時高校2年生の二川秀史さん（26期生）で、その後西川先生の指導のもと、よりシンプルな形に修正されました。さらに、当時博報堂に勤務していた、9期生の福井晋さん（東京藝術大学卒）が実用的なデザインを作成し、「けやき君」は完成しました。完成した「けやき君」は、1999年6月5日に、広報「雲雀」にて披露されました。

「けやき君」完成直後、川越市在住の発泡スチロールアーティスト、ヤジマキミオ氏によって、発泡スチロールのオブジェが作られました。このオブジェは、現在、新館5階講堂の前に飾られています。



「けやき君」完成後、さまざまな「けやき君グッズ」が、地域の企業の協力によって製造されました。

最も多く製造されているグッズは、「けやき君どら焼き」です。川越市の和菓子メーカー・「菓匠右門」にて年間3000個製造され、体育祭で約1000個、文化祭で約600個販売される人気商品です。

当時「けやき君グッズ」の製作に関わった高柳康雄先生は、「特に商品化が難しかったのが『けやき君ケーキ』でした。ケーキは焼き上げる際に膨らんでしまうため、けやき君の形を安定して作れないという理由から、さまざまな洋菓子店から商品化を断られました。しかし、東松山市の洋菓子店『モンプレジール』が、『専用の型を作れば、けやき君の形で焼き上げることができる』と、商品化を許可してくださいました。完成まで3年かかりました」と話しています。

現在、「けやき君グッズ」は全60種類あります。中学校・高等学校のキャラクターグッズとしては、全国でも有数の種類を誇ります。



こうして城西川越のシンボルとなった「けやき君」は、これからも親しまれ、愛されてゆくことでしょう。



題字について

38期生(2011年度卒)

息吹き

橋爪 奨

「息吹き」という言葉は書くのに無我夢中になれた。制作中ずっと考えていたことは、自分自身の納得と題字としての品格だ。この50周年記念誌というのは今までの50年という重みも大事にしなければならない。城西川越の先生方、先輩方の積み重ねてきたものがあるからだ。最初に思い浮かんだのが墨である。50年前の墨を使ってみるのはどうかと考えた。この年月を過ごしてきた墨と共にある母校と思うと感慨深い。墨は墨液というものが今では一般的だが、固形墨を磨ることにした。墨を硯で磨る時間や構成を練る時間など、書く前段階で緊張感を高める。最初に筆を墨につけて紙へ持っていった時、これはまずいと感じてしまった。何かと言うと3文字中2文字が漢字で絶妙なバランスで仕上げなければならず、気合や根性ではどうにもならないからである。それでもいい。書かなければと「息吹き」と真摯に向き合った。何百枚も書くと肩に力が入りすぎていることに気付く。そこで力を抜いて書いた1枚がこれになる。そこからまた試行錯誤を重ねていったがこれを超えることが出来なかった。枚数をこなしたからといって偉い訳では無いが、こなした枚数によってそれが蓄積されたエネルギーとなる。そのエネルギー爆発が躍動感に繋がる部分も少なからずあるので諦めず書いていた。

私自身1人だけではなく書家仲間の批評も受け入れレベルの高いものに仕上がったのではないかと自負している。城西川越の歴史を作ってくれた先生方、先輩方には感謝を述べたい。私もその中の1人ではあるが1人では成り立たず皆のおかげで今があると考えているからだ。もちろん私の卒業した後の後輩も含まれる。一人ひとりの城西川越という学び舎での躍進が明るい未来を作り続けてくれている。そんな様々な思いもありながら揮毫したのがこの「息吹き」である。





城西大学附属川越高等学校 創立50周年
城西川越中学校 創立30周年
記念誌

編集後記

2022年4月に城西大学附属川越高等学校創立50周年、城西川越中学校創立30周年を迎え、このたび記念誌「息吹き」を発行する運びとなりました。

高校創立10周年、20周年、40周年(中学創立20周年)に次ぐ本記念誌を、渡辺聡校長の「読んで、触って、見て楽しい、資料的価値を備えたもの」との言葉のとおり、記録性を備え、かつ城西川越学園の歴史と現状を伝えるものとすべく、製作にあたりました。その内容については、準備委員会が発足した当初の会議における国語科伊藤修先生の「城西川越の誇れるものとは、何よりも『人』ではないか」という言葉を礎として、写真やデータのみならず、各方面でご活躍なさる方々の言葉に重きを置きました。ご多忙であるにも関わらず快くご協力くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

また、本誌の編集にご尽力くださいました株式会社ティーエーシーの恒川敏郎様、株式会社ブライト企画の袴田悦香様、株式会社タニタフォトの谷田英剛様には編纂委員一同心より御礼申し上げます。

開校以来50年、本学園は関わる全ての方々のご喜ぶ哀楽とともに歩みを進めてまいりました。社会の目まぐるしい変化にも対応をしつつ、今後も皆様とともに力強く前進し続ける城西川越でありたいと存じます。これからも変わらぬ皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

五十周年記念誌編纂委員会

【五十周年記念誌編纂委員】

中山 大輔 會田 広一 米谷 祥平 舛田 智哉 松本 豊

発行：令和4年11月17日
編集者：五十周年記念誌編纂委員会
発行所：城西大学附属川越高等学校・城西川越中学校
〒350-0822 埼玉県川越市山田東町1042
TEL.049-224-5665(代)